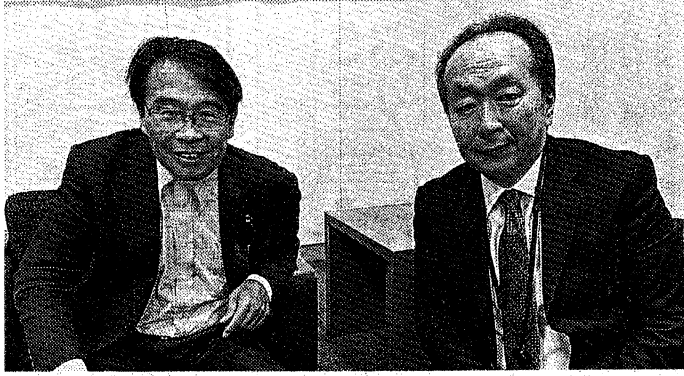


# 東京の「島」対談

## ドローン配送の課題と展望

松原 本年2月、八丈島でドローンの配送実験が行われ、注文した料理を温かいうちに注文者に届けることができたそうで、「東京七島新聞」の2月28日号に詳しい記事が掲載されています。いよいよドローン配送が動きだしましたね。



川口 禎光

(かわぐち よしみつ)

一般社団法人ドローン安全推進協議会事務局長。同協議会は2016年設立、ドローン産業の発展育成のため、運航ルール策定等、安全推進活動をリードする。

松原 仁

(まつばら じん)

衆議院議員

略歴

早稲田大学商学部卒。松下政経塾卒塾。拉致担当大臣、国家公安委員長、消費者担当大臣、国土交通副大臣歴任。島の振興議連幹事長。

対談

第43回

は東京都と八丈町が、なく、落下によるリスクも低い地域で実験をスタートさせたことは素晴らしいと思います。特に、料理を形が崩れないように、ドローンが斜めにならないように制御する技術は世界特許レベルです。今回、人口が密集している都心ではなく、島しょという、ドローンのルートに飛行の障害となる構造物等が少

す。そこで、ヘリコプターに使われる回転翼（プロペラ）で、飛行機に見られる固定翼のハイブリッド型のドローンが有効です。まず、離陸時は消費電力の多い回転翼でほぼ垂直に飛び立ち、移動している間は固定翼を使い、電力を節約し、着陸時にはまた回転翼で降りる。松原 そうすれば10メートルもの滑走路も不要ですね。川口 また、エンジンの飛行ルートが固定化されて毎日同じルートで飛ぶと、ハッキングされたり、妨害電波によりルートを外され、荷物が奪われたりするリスクもあります。松原 島しょの場合、風雨が強い自然環境を克服する技術が必要となります。最近、マンションに

川口 集合住宅の多い日本では、将来的に配ボックスを設置し、そこへ荷物の受け取りをすれば、ドローンは給電も行おうという計画もあります。松原 島での配送実験を今後の開発に生かして、さまざまな課題を克服し、交通不便地域の解消にドローンが役立つようになればと期待いたします。また、注文が少ない